

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成17年(2005)

平成17年 春の大祭号(72号)
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp>

主な目次

女性天皇容認におもふ	2頁
春の大祭案内	3頁
杜の話題	4頁
今後の行事	6頁
責任役員・総代改選	8頁





この度、我が皇室に於かせられましては、紀宮清子内親王殿下の「納采の儀」が執り行なわれ、正式に「婚約が相調われま

御社殿の側に在る大宮桜(冬桜)は、昨秋の落葉のあと直ぐ咲き初め、正月の初詣から二月中が見頃でありました。今又沢山の花を付けています。よくよく観るとほかに小さな若葉が芽ぶき初めています。それにしても五ヶ月間に亘って長く花を付けたものです。又水舎のそばの白いこぶしの花も咲き、桜の蕾もほんのりと淡く色づき初め一雨毎に「たまきはる」春の息吹が感じられます。種々の計画のものと新年度も四月から始まるのです。今年、役員総代理様の任期満了に伴う改選も行われました。各々の氏子地域から選出の三十七名(欠員三名)の総代理様が四月一日付で三ヶ年間の任期で留任

女性天皇容認におもふ

宮司 鎌田 紀彦

或いは新任としてご就任頂きます。私共の神勅は大神様のご神威を畏み、祈りと感謝の誠を捧げ日々ご奉仕をさせて頂いておりましたが、この事に充分ご理解を頂き、引続き尚一層のご支援とご協力を頂戴致し度くよろしくお願ひ申し上げ次第でございます。やがて間もなく若葉・青葉の映える頃、当宮の春の大祭(つつじ祭り)が斎行されます。五月三日の子供の祭りの稚児行列や、五日の当日祭(尚武祭)を中心に様々な奉祝の神賑行事も奉納されます。氏子・崇敬者の皆様様の真心からのご奉仕とご協力によって賑々しく斎行させて頂き、大神様のご神威を仰ぎ五穀豊穡はもとよりの事、全ての産業の更なる成就をお祈り申し上げますと共に、皆様様の「ご家なる平穏」と氏子地域の安全と発展をご祈念させて頂き、併せて皇室を中心とする道義の国、美しい伝統と文化の国、日本国の益々の隆昌と世界の平和をご祈念させて頂きたく思っております。多くの方々のご参詣をお待ち致しております。

このように、秋には結論が出るの事であり、先のことと承知はありますが、もしも女性天皇容認の結論が出た場合には、日本伝統の男系の万世一系の血脈が消えてしまふことになり、将来に大きな禍根を残すことになりかねません。連綿として続いて来た我が国の根幹に係わる重大事であり、その事を国民の一人として憂える次第でございます。今我が国は、初代の神武天皇の建国以来二、六六五年、第一二五代目の天皇陛下を戴く世界に類例のない素晴らしい国柄であります。確かに一國の君主のご家系が凡そ二、六〇〇余年に亘って途切れなく同一の血脈を保持され、今日に至っているこの驚くべき連続性は、世界広しと云えども唯一無二の奇蹟的事例とも云われております。そのご歴代の中で過去八人十代の女性天皇が即位されておりますが、皆中継ぎ(次に天皇

次第でございます。先日或る新聞社の世論調査で皇位継承を定めた皇室典範の改正については「女性も天皇になれる様にした方が良い」とした人が八二%にのぼっていると報じられていました。これは皇太子殿下の国民待望のお子様(内親王様)で、すくすくと成長なされておられますが、今の皇室では秋篠宮殿下がご誕生以来、四十年に亘って男子のお世継ぎがご誕生になつておられないことから、皇統が断絶する危機をさける為、小泉首相の私的諮問機関として「皇室典範に関する有識者会議」が出来て、皇位継承の在り方が検討され始めたことに依るアンケートでありました。この会議のメンバーの大方が男女同権の世の中であることから、女性天皇を容認することで進んでいると

「男系男子による継承の歴史的意義と重みを明確にした上で将来に亘って安定的に皇統を維持するための具体議論がなされるべき」と示されております。いづれに致しましても、ご皇室の文化伝統を重んじて維持されて来た権威の象徴である男系による皇位継承の伝統を子々孫々に継続して頂きたいものと願っております。(平成十七年三月二十八日記)

となられる方が決められてあり幼帝であつたため)で独身の女帝でありました。この様なご歴代の中にあつて、近くは第一一九代の光格天皇は、第一一八代の後桃園天皇のお子様(内親王様)として入られ、後に内親王様が皇后となられました。傍系の皇統から入られ、直系に近づかれる方途がとられたのでございます。光格天皇の直系が現皇室であります。又遠く第二六代継体天皇は第二五代の武烈天皇で皇統が途絶えようとしたとき、第十五代の応神天皇の五代の孫(側近が福井の王をお探した)として即位されております。恐れ多くも現天皇家は、当宮のご祭神でもある応神天皇の血脈に継がれるわけでございます。そこで出来ればGHQの指令によって廃止されている旧宮家を復活することが出来ることに皇室典範を改正し、その場合養子は旧皇族より迎えることにして頂ければ、傍系の旧宮家の男子との縁組みも可能となります。そうならば、明治天皇五代の孫の即位も夢ではないと思いません。大変立ち入った事を書かせて頂きましたが、現にご皇室の方々のお立場に係るることと存じ乍ら、マスコミ等で軽々にヨーロッパの女王と同等に女性天皇容認論が取り扱われておりますので、敬愛してやまない我が皇室の伝統が守られ、伝統ある国体が護持されるよう願ひ切なるものがございますのでお許し願はばと存じます。尚神社本庁も皇室典範改正に関する基本姿勢の一つ

八木秀次著『女性天皇容認論』を排す。及び、皇室典範研究会代表小堀桂一郎先生の「女帝容認論批判」(月刊誌「日本」第五十五巻第二号、平成十七年二月)等を参照させて頂きました。

春の大祭のご案内

当宮では、来る五月一日より五日の間、春の大祭（つじ祭）が斎行されます。期間中は五日の大祭当日祭（尚武祭）をはじめ、四日に第二日ノ儀・拳式者の集い、三日に植樹祭が稚児行列、二日に植樹祭が行われます。四月二十九日には弓道奉納射会、五月十日には献茶式、五月十四日には新能が催されます。また参道には植木市・露店も立ち並び、境内は参拝の方々に賑わいます。

弓道奉納射会

春の大祭の奉祝奉納行事の魁として例年四月二十九日に、当宮弓道場振武殿において弓道奉納射会（主催 大宮八幡宮・共催 当宮振武会）が行われます。社殿で奉告参拝ののち、道場では矢渡し式が古式に則り執り行われたあと、終



日都内近県よりの参加の弓友が、高校の部・一般の部に分かれ、日頃の鍛錬の成果を競い合います。

植樹祭

五月二日午後二時、全国緑化運動に因み、当宮みどりの会主催で、植樹祭を神門内で斎行。つづいて参列者に緑化推進の一助として苗木を授与します。



第二日ノ儀・拳式者の集い

五月四日午前十時より、春の大祭第二日ノ儀を社殿で結婚式を挙げられたカップル他が参列して斎行。つづいて清涼殿において「拳式者の集い」を開催。集いでは、ドラム・キーボード・バイオリンによる奉納演奏会「若葉イン大宮」も開催され、当日ご参拝者の皆様も自由に陪観いただけます。



献茶式

第六回目の茶道裏千家献茶式が、五月十日午前十時より執り行われます。今回の献茶式は裏千家鵬雲斎千玄室大宗匠（十五代家元）のご奉仕により斎行。境内では裏千家淡交会東京第七東支部の奉賛添釜が実施されます。また大宮幼稚園児による園児席も設けられます。



大宮八幡宮の杜新能

第二回目の「大宮八幡宮の杜新能」が来る五月十四日に奉納公演されます。この催しは、杉並で能楽を楽しむ会主催・当宮共催で開催されるもので、毎年元旦午前零時に、「独り翁」を奉納される能楽師野村四郎氏等観世流の演者によって、奉納されます。演目は、能が「船弁慶」と狂言を「末広」、舞囃子が「高砂」の予定です。入場には陪観券が必要ですので、お問合せ下さい。



春の大祭祭典と行事	4月29日
弓道奉納射会	4月29日
朔旦祭並びにつじ育木祭	5月1日
植樹祭	5月2日
子供の祭	5月3日
稚児行列	5月3日
古武道奉納演武	5月3日
民話語りちんじゅの森物語	5月4日
第二日ノ儀	5月4日
拳式者の集い	5月4日
若葉in大宮コンサート	5月4日
杉並太鼓演奏	5月4日
春の大祭当日祭(尚武祭)	5月5日
野点	5月5日
雅楽演奏	5月5日
雅太鼓演奏	5月10日
裏千家献茶式	5月10日
大宮八幡宮の杜新能	5月14日
御嶽様名神社例祭	5月16日
さつき展示会	5月21日
大被(夏越被)	6月1日
七夕・乞巧奠飾り	6月30日
納涼大宮天神祭(書画行燈掲出)	7月1日
多摩清水社例祭(水神祭)	7月15日
戦死者慰霊祭	7月25日
戦死者慰霊祭	8月1日
朔旦祭	8月15日
月次祭	毎月1日
古民具骨董市	毎月15日
お朔日参りを致しましょう	第4土日

杜の話題

十七年新春の表情

平成十七乙酉（きのととり）年。元旦午前零時、宮司の打つ一番太鼓が大晦日の雪により被い清められた境内に響き巨り、神門が開門。新しい年を迎え新たな思いを込めた参拝者で境内があふれる中、大前に能楽師野村四郎氏により神能「独り翁」が奉納され、ついで新春開運厄除大祈禱祭（一番祈禱）が斎行されました。

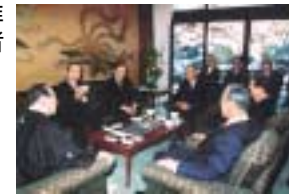
元朝午前三時、宮司奉仕により若水が多摩清水社より汲まれ、ご神前にお供えされました。

午前八時、宮司以下祭員により歳旦祭を斎行。境内に雪が残りキリリとした寒さの中、立正佼成会庭野日鑪会長、山田宏杉並区長らが初詣をされました。

二日午前十時より、小笠原宗家嫡男清基氏ら小笠原流一門により、天下の邪悪を祓う除魔神事の大的式が奉納されました。三日は午前十時より、皇



位の大元の始めを寿ぐ元始祭を斎行。今年も、三ケ日で十万人余の初詣の善男善女で終日社頭が賑わいました。



- その他の主な参拝者
- 元五摂家当主 一 條實昭
 - 東照宮宮司 稲葉久雄
 - 東京大神宮宮司 松山文彦
 - 大國魂神社宮司 猿渡昌盛
 - 竹駒神社宮司 千葉博男
 - 貴の花親方（元横綱） 花田光司



どんど焼き

小正月恒例の行事であるどんど焼き（古札焼納祭）が一月十五日午前に行われました。この日は、ご社殿に於いて月次祭並古札焼納奉告祭のあと、

小雨の降る中境内斎場で古札焼納祭を斎行。祝詞奏上のあと古来の火切り具でおこされた忌み火で神札やお守り神矢、正月飾りなどがお焚き上げされ、参拝者はたちのぼる浄火を受け今年一年の無病息災を祈つておられました。

昨年から将来に巨りこの神事を存続させる為、係員を配置し、お納め頂く際に先ずお被いを受けてから点検させて頂き、燃えない物や神社に關係のない物はお断りし、お持ち帰り頂いており



文化財防火デー 消防訓練

一月二十六日は文化財防火デー。当宮ではこの日、自衛消防訓練が実施されました。文化財防火デーは今から五十六年前の昭和二十四年一月二十六日、奈良・法隆寺の金堂から出火、国宝の十二面壁画を焼失したことから、「文化財を火災から守ろう」と制定されました。当宮では午前十時半、地震の

発生により社殿から出火との想定で訓練を実施。通報連絡、避難誘導、初期消火などに近づき杉並消防署、杉並宮自衛消防隊による一斉放水を行いました。当訓練には地元大宮地区の町会の皆さんにもご参加いただきました。



伊勢参宮旅行

当宮恒例の新春伊勢初詣旅行が去る一月二十三日より二十五日までの間実施され、神宮と神戸の三社を詣りました。今回の旅行には三十三名が参加。まず空路伊丹に入り、第一日目は阪神大震災の被害からいち早く復興され「蘇る神」として尊崇される生田神社、大楠公をおまつりする湊川神社、あらゆる産業の守護神と仰がれる長田神社の神戸三社を参拝。翌二十四日は伊勢に入り、外宮の御垣内参拝に続き内宮御垣内参拝・太々神楽奉納を執り行いました。このあと二見興玉神社を参拝し翌最終日は熱田神宮に参って無事帰京しました。

節分祭・追儺の儀

豆撒き神事が

恒例の節分祭が二月三日に、斎行されました。節分は立春の前日、大寒の終わりの日で季節を分ける日です。

この日は、午前十時より祭典を奉仕し、宮司祝詞奏上に続き、桃の弓、葦の矢で天・地・人を射る追儺の儀が行われました。引続き社頭にて豆撒き神事が行なわれ、手作りの鬼の面をかぶった大宮幼稚園児や参拝者に除災招福の豆がまかれ、厄除福豆も授与されました。



初午祭

二月の初めての午の日に、稲荷大神が京都・伏見の峰に天下りなされた由緒からこの日に全国各稲荷社では初午祭を斎行しますが、当宮でも末社大宮稲荷

神社において初午祭が斎行されました。

今年は二月三日で節分祭と重なり午前中に豆まきし、午後一時よ

り、百数十本の朱色の初午のぼりに囲まれた稲荷神社において、のぼり奉納者等崇敬者の参列のもと賑々しく祭典が斎行され、引続き清涼殿に席を移し、直会が執り行われました。

また、境外社の谷中稲荷神社の初午祭が二の午の二月十五日に、地元稲荷議員約三十名が参列し、宮司奉仕により斎行されました。祭典終了後は、油揚げ等を七輪で焼いた手作りの直会で、議員の交流を深めておりました。この他堀ノ内稲荷神社では同日正午に、尾崎稲荷神社、白山稲荷神社は六日に初午祭が斎行されました。

尚大宮稲荷神社には、姉妹神社の竹駒神社のご神札も祀られておりますが、竹駒神社の初午大祭は、旧暦で斎行されており、本年度は三月十一日より一週間に亘って斎行され、十五日例祭には、当宮より宮司、高橋、藤枝両役員が出向参列致しました。



紀元祭

建国記念の日の二月十一日、全国各地では様々な行事が催されましたが、当宮では午前十時より紀元祭を斎行、二六六五年前の神武肇国を祝いました。

紀元祭には当宮責任役員総代や大泉、本橋、松浦の各杉並区議会議員、和田日本会議杉並支部長等六十名が参列、国歌斉唱のあと宮司が祝詞を奏上、大和檀原宮に神武天皇即位いらい万世一系の天皇によってしるしめされるわが国のその上を偲び国運の隆昌をご祈念申し上げました。

ついで先の当宮御鎮座九四〇年記念事業で整備された神門前参道広場を齋場に檀原神宮遥拝を斎行、参列者全員で「紀元節の歌」を声高らかに奉唱しました。



桜まつり

恒例の桜まつりが花の開花に併せ、三月二十六日から四月十

日の土、日曜に開催されました。さ

くらをライトアップし、昨年さくらの日独女王により植樹の紅八重枝垂の側にも篝火が焚かれ夜間参拝が催され、お休み処やお茶屋も設けられてお花見の人々で賑わいました。

特に四月二日には、地元出身の歌手の「茅はる歌謡ショー」が開催され参拝の方々が春の宵の一時を楽しまれておりました。



中学生職業体験学習

”一日神主さん”に

現在、中学校では社会教育の一環として様々な職業の体験学習が行われていますが、当宮でも去る二月一日、松ノ木中生徒による体験学習が行われました。

この日、一日神主さんになったのは奥平将生、永島知樹、坂口拓、工藤冬弥の各君と石田茜、持木彩香さんの同中一年の男女六名。

朝の朝礼で職員に紹介されたあと白衣白袴に着替え、まず境内清掃。次いで十時からの朔旦祭に参列のあと午後には鎌田宮司の講義や神職装束の実際の着装などを体験。終わって「ほかでは出来ない体験をした」との感想を述べていました。



神政連

神奈川県本部が参拝

神道政治連盟神奈川県本部（山本孝司本部長）の一行九十名が去る一月三十日、当宮を参拝されました。



神道政治連盟は「神道精神を国政の基礎に」のスローガンのもと教育正常化や北朝鮮による拉致問題などに取り組んでいる団体。この日は午前中に靖國神社を参拝のあと当宮に来宮。正式参拝ののち境内を散策、早春の息吹きを感じ

られて昼食後、次の目的地に向かわれました。

境内で竹炭作りが

去る三月十二日、境内神苑に見慣れない煙突が出現しました。これは竹炭を焼く炭焼き窯の煙突で、炭焼き窯は竹炭作りを大神様にご覧頂こうと八王子市にある森林総合研究所の石川敏雄さんと、日本さくらの会の松沢七海司さんのご奉仕で作られたもの。

この日、午前中竹炭窯が建てられたあと火入れが行われ、午後から翌朝までお二人や職員有志が不寝の番をして炭焼き。十五日には窯が開けられ漆黒の竹炭が取り出されました。また竹酢液約六リットルも抽出されましたが、これは殺菌消毒、土壌改良に役立つほか入浴剤として使えばアトピー性皮膚炎や乾燥肌にも効果があるそうです。



花だより

去る二月二十五日に、日本さくらの会松沢氏の紹介で、南参

道入り口に「御衣黄」と南参道に「関山」の二本の桜が、花月農園（高橋保男氏）により奉納植樹されました。数年後には見事な花を咲かせる事でしょう。また社殿左脇の菩提樹（写真）は、毎年



六月中旬頃に、ほんの数日間だけ薄山吹色の清楚な花を咲かせます。三、四日で花は散つてしまいがすが、木の回りは一面に薄山吹色の絨毯を敷き詰めた様相となります。

昨年三月に奉納された古代の「大賀ハス」は、七月初旬の早朝綺麗なピンクの花を咲かせました。今年も同時期の開花を楽しみにしております。

大被式

恒例の夏越しの大被が、六月三十日午後四時から、神門前広場に於いて斎行されます。

大被は、十二月の年越しの大被と年二回行われます。特に六月の夏越しの大被は「水無月の命夏越しの被する人はちとせの命

のぶといふなり」ともうたわれています。どなたでもご自由に参列ができます。ご参列の方には、「玉串だんご」福笹」が授与されます。



乞巧奠「七夕飾り」再現

平安の七夕飾り・乞巧奠（きこうでん）を、本年も七月一日より十七日の間、清涼殿口ピに於いて再現公開致します。

乞巧奠は学問技芸の上達を願い、筆硯や楽器や針糸などを飾りつけた行事。元々は中国の牽牛織姫の伝説が、わが国に入り、お盆のみたま祭りの先触れの神を清らかな乙女が川のほとりで迎えるという柵機（たなばた）



つ女の風習と一体となり平安時代より宮中を中心に行われたと云います。
期間中の土曜日夕刻には、奏楽技術の向上を祈り、当宮雅楽部による雅楽演奏が実施されます。

納涼大宮天神祭

奉納「行燈」募集

夏の風物詩
大宮天満宮の
納涼大宮天神
祭が、今年も
七月二十五日
に行われま
す。

先ず、学業
技芸の向上を
祈る天神祭を
午後六時より
斎行し、午後



訃報

大宮幼稚園第四代園長中西旭氏が、去る一月二十二日にご逝去されました。(享年九十九才) 当園には昭和六十一年一月より平成七年三月まで十年間在職致しました。
謹んでご生前のご教育に対し、深く敬意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

七時より社殿前において、和太鼓の奉納演奏が「時間をはずした日の祭り」として執り行われます。この後、子供達の「ミニ二花火大会」も予定しております。
又恒例の「書画行燈」を今年も左記の通り募集致しますのでご応募ください。



記

水彩画、習字等を指定の用紙を使用して応募下さい。
用紙は、六月より無料でお配り致します。

作品には、必ず名前を書き入れて下さい。また申込み用紙に住所氏名をご記入ください。締切りは、七月十日です。

多摩清水社例祭

水の日(八月一日)、朔旦祭に引き続き、境内社・多摩清水社の例祭が斎行されます。

多摩清水社より御神水が湧き出ており、「広き野に靈(たま)の清水のあるところ(青畝)」と詠まれております。

盛夏の水の大切な時期に、水神様の御神徳を称えお慕い申し

上げ、私どもの生命の源である水の恵に感謝の誠を捧げるお祭りです。ご自由に「参列下さい」。



伊勢神宮式年遷宮シンボルマーク・標語公募中

伊勢の神宮では来たる平成二十五年に第六十二回神宮式年遷宮が斎行されますが、次により「シンボルマークと標語」の募集を実施中です。奮ってご応募下さい。

応募内容は シンボルマーク部門「神宮」をイメージしたシンボルマーク(モノクロ、カラーいずれも可) 標語部門「式年遷宮」を成功させるための標語(スローガン)の二部門。
応募方法は官製ハガキまたはEメールに 作品 住所 氏名 年齢 性別 職業 電話番号

―を明記。自作未発表作品。何点でも可但し応募は一作品毎に。
応募・問合せは東京都渋谷区代々木一―二 神社本庁内伊勢神宮式年遷宮広報本部「シンボルマーク・標語募集」係
☎ 03-3337-9180 11
FAX 03-3337-9182 99
締切り・平成十七年八月十五日

平成十七年大宮八幡祭り
(秋の大祭)日程について
本年の大宮八幡祭り(秋の大祭)は左記の日程により斎行する。
(平成十五年より敬老の日が、九月第三月曜日に改正された事に伴い、当宮の祭典・行事はその前の土曜日・日曜日を中心に斎行する。)
* 例大祭は、従前通り九月十五日(木)に斎行する。
* 神輿神霊入れ、末社若宮八幡神社例祭は九月十六日(金)に斎行する。
* 宵宮祭は九月十七日(土)に斎行する。
* 氏子奉幣祭(奉祝当日祭)、神輿合同宮入りは、九月十八日(日)に斎行する。
* 神輿神霊還しは、九月十九日(祝)に斎行する。
* 十五夜の神遊びを九月十九日(祝)の夕刻斎行する。

改選第一回総代会開催
 責任役員、総代の任期満了に伴い、四月一日付で改選になり、同日午前十時よりの朔旦祭に併せ総代就任奉告祭が執り行われ、祭典後宮司より委嘱状が各総代に伝達されました。ついで第一回目の総代会を午後四時より開催致

高橋 住雄	方南北地区	三枝 貞太郎	相川 貞一	大塚 喜雄	黒澤 浩一	田木 千城夫	三枝 栄治	方南地区	根岸 辰行	青木 龍彦	毛塚 正彦	関井 又治	請井 勝雄	五本 徳治	大宮地区	松ノ木地区	森川 純一	藤枝 宏友	浅谷 孝治	古谷 嘉次	細井 孝次	監査	飯高 今朝賢	和野地区	笠原 恭夫	齊藤 洋一	松村 康夫	梅田 清巳	生形 勝巳	和田東地区	鈴木 憲章	岩崎 太良	細野 文善	責任役員	鎌田 紀彦	代表役員	宮司
-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----	--------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	----

3月26日、幼稚園のホールで平成4年度に卒園した園児の同窓会が開かれました。大学受験が一段落したところで「心のふるさと」に戻って見たかったのでしょうか、すっかり体が大きくなった子どもたちを見あげながら話す内に12年前のきく組・うめ組・ふじ組の子供たちにかえって来ました。



責任役員は、神社規則第十条により総代会に於いて選出され、井出辰夫氏が勇退、田木千城夫氏が就任致しました。この後総代会では、議長団・監査が選出され、新議長により平成十七年度事業計画並びに収支予算報告の件等の議題が諮られ、全議題が満場一致で承認されました。任期は、平成十七年四月一日より平成二十年三月三十一日までの三年間です。総代定員四十名、欠員三名



式が進む中、子供たちからのメッセーじや歌声に大きく成長した我が子に涙する保護者の方々が今日までよくがんばったね！楽しかったね！小学校に行っても楽しいことは沢山あるから頑張つてね！と滂沱の涙の中、担任の先生は一人一人見

た。国歌を斉唱した後、証書授与には少し緊張した面持ちの担任の先生が子供の名前を呼び、元気よく返事をした子供たちはお父さんやお母さんとフラワールードを手をつなぎ、壇上で園長先生より証書を頂きました。



卒園式
 第55回卒園式が3月19日挙行されました。今年には諸般の事情によりいつもより1時間早いスタートでしたが、穏やかな春の光のなか園庭に集合した子供たちと保護者の方々そして教職員、みな喜びにあふれていました。最初にこ来賓の方々と共に御神殿において神職さんより「卒園奉告祭」を執り行っていたが、次に清涼殿において拍手のなか卒園児が入場して式が始まりました。

緑豊かな都心の社。 正統派神前式

初詣 宮集 宴會

衣装・美容着付・写真・餐膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

つめていました。この後、幼稚園に戻ってお母様方より心温まる謝恩会を開いていただき、園庭での最後のセレモニーも心に残る会でした。紙吹雪の中、園をあとにする子供たちは光り輝いていました。

結婚式挙式者芳名(敬称略)
 (平成十六年十二月一日、十七年三月三十一日)
 近藤晋司・弥生、仲本剛朗・順子、村山博隆・桃子、山本明男・栄里子、坂口浩也・麻里子、望月俊彦・美奈子、塩田基樹・稚恵、横尾陽道・優子

初宮詣芳名

(平成十六年十一月十六日、平成十七年二月十五日)

お健やかな成長をお祈りいたします

- 安田梨乃 菊地朝日 高本利子 鈴井咲貴 天野仁衣奈 佐藤アゲハ 千葉あかり 黒川奈穂 新田聖奈 山田晃之 江田拓磨 矢島幹也 土屋祥一 林田凌汰 笠原惇平 野口悟 新川玲奈 鈴木颯太 尾和枝里香 古谷侅佑 渡邊蒼 大野直人 高畑美佳 江成日和 田辺向陽 佐伯諒 塩崎来武 東美幸 大川佳風 山田ありさ 横川陽汰 松永未悠 波佐間理央 星野那奈 藤井凜々音 根本利音 山鷲琴子 近藤悠真 古井又大 中島明日香 町田七海 樋口京波 嶋田朱里 安井悠一郎 福田菜々美 伊藤有那 小幡萌絵 與那城爽登 河邑磨子 辻本敬心 鈴木和花 佐藤晴 内藤裕也 大井元喜 水野碧 小村紅葉 戸枝詩樹 内海あかね 森勇太 大廻涼亮 小林麟 中山陽世 津野満咲 加藤幹大 劉裕心 青野大樹 津野満咲 石井智望 工藤綺乃 新美敢太 内山慶人 佐藤渚 大野貴太 菊地和希 佐々木爽 上之園哉太 神原美琴 塚田美葉 笹田諒 和中麻祐 高柳翔太郎 中沢双葉 間宮梨乃 竹中瞭太 三輪優那 榎本怜乃 松本浩弥 佐藤菜々美 辻川朋来 木村彩乃 幸田あすか 上野亜斗瑠 小坂陸翔 木全凜菜 石垣羽菜 関口結花 中山聖英子 島田華央 山田紘輝 池田絵都 向出智美 森脇花楓 高嶺里緒 向山玲 川端絵瑠真 本橋未奈望 大原守禮 近藤匠 安田耕大 越智誠琉 赤塚晃翔 館島凜 入江鈴介 藤本遼 中村海太 佐藤杏 河原畑みらい
- 大工結愛 馬場琉太 深沢桃代 山本海羽 齋間亮 日野晴哉 森祐偉 松井歩香 阿川直哉 竹野美央 小野礼枝奈 三木彩音 小野晃 笠木結 左柄七海 辰巳誠輝 平塚拓真 宮崎倫 本道杏樹 丸山祥琉 中井和利香 松岡咲良 太田奈波 五島慶人 久水知彩子 齋藤修 齋藤夏子 廣方太一 千葉遙 山本愛翔 穂坂友美 猪狩開 竹澤百帆 大野沙恵 三方朋香 高埜沙 大谷歩夢 土田灯里 早崎日菜子 深川芽依 添田瑠乃 糸川勇人 矢崎友陽 三浦遠瑛 花村卓弥 相原正志 磯愛香 長井祐介 長井健介 福田樹 久田健心 前田光良 東田中智子 荒尾夏美 長谷川權 秋元みずき 神子結羽 岡崎拓飛 原口遼子 八木信太郎 向坂紅音 岡田悠雅 三宅慈英 市川光成 川中真 西村瑠璃 石河和 井ノ口良 岩崎絆李 志賀公拓 雲田開晴 向玲結 戸塚玲於 柳呂光瑛 齋藤琴音 茂木実祐 長谷川心朋 荒澤朋希 小田陸 松本浩志郎 岡本真央子 武石佳奈 大谷遥 及川晴香 遠藤愛芽 鶴岡諒也 曾根琉生 竹山博貴 定池蒼大 山口華怜 横山留依 高橋蒼佑 矢部陸人 小松美穂 又吉琉輝 中嶋理秀 松本隆宏 永井颯斗 田島あおい 田島あかね・池田美憂 佐藤沙梨 糠野剛瑠 本多あかり 中井伸次朗 森島楓 石井康晴 小島愛美 若林美来 嘉数木希 森海人 小林葵衣 林凜々子 黒木温人 山崎歩琉 星野千聖 笠原宗大 北澤美咲 齋藤朱莉 榎本朱里 橋爪彩加 安村小霧 仁木菜人 森田大翔 藤井美嘉 勝田衣都 大熊千晴 後藤理緒 的場香佳 山本伊織 磯俣玲花 畠山結蘭 野口柚香 北條沙弥 杉山大知 深山亮太 下山凛太郎 行方重礼 藤崎智香 佐々木拓真 清水一愛 村井晴吾 三宅海晴 岡崎麻結 山内七久 直井陽誠 白崎雄也 稲田百花 酒井瑞穂 杉江晃
- 正路悠真 氏森早紀 川端美結 峯田梨花 石田梨瀬 大岩榮子 鈴木敬一 石川真帆 河瀬風吹 石井柊名 小平敦史 上坪玉季 黒田倫矢 伊藤大騎 吉田光葉 窪田陽介 太田康愷 渡辺光 清水朱里 天野賢吾 田部未羽 杉山紗耶 若林育治 安部慎未 増田庵人 後藤美喜 山本大 立花一樹 丸屋晶寛 塩見悠也 松本和也 川上遙大 丸井結香 芝崎六花 阿部祐里奈 川久保真菜 松本純子 桑田悠那 細島里咲 森居凛太郎 黒木康行 東里咲 留守孝輔 三井雄太 大坪諭史 矢島爽吾 小林音結 岩佐京香 遊馬絵太郎 町田匠 黒田俊輔 豊田桃子 高野醫生 道解青詩 白井利璃 石田純大 富澤和生 三木蓮 浅野良弥 黒田牙綺 浅井奈々 中村彩乃 中村花梨 横山優 小美野優菜 山尾実結 菊池奈々子 三枝明日香 譲原葵 本澤美日 佐藤美穂 酢谷心音 加藤優奈 三澤舞 佐々木真穂 田村悠羽 米長海斗 日向新師 小村萌華 本郷望乃 池上和希 加藤裕太 吉田美琴 米山晃生 千葉洋人 鈴木陽子 友清恵真 高野天音 井口直也 金子可奈 小野琉璃 井川唯奈 石橋優希菜 藤本苑佳 戸田然 林虎之介 高山大夢 朝日明香 松阪美玖 工藤ひなた 宮川千鶴 大崎瑛斗 名嘉琉星 末川雛子 窪田舜祐 高橋佑花 石井柚里 川高史門 上原大空 東真奈美 村松凛人 牧野雄太 松本光由 武市泰知 塩見旺士郎 川崎混生 池谷柊吾 渡島優 岡島愛 中村彩人 切刀澄々 鷗野倫太郎 橋本大河 菅原優輝 小淵彩加 矢野優奈 森源心 徳永悠乃 塚原涼翔 佐藤友宥 前田波音 吉岡純平 江口優衣 佐野寧 八重樫幸佑 山崎万利子 内田尚太郎 田邊香乃 竹人咲良 宮澤嘉美 森祐人 渋谷由宇 五木田美羽 青木祐心 杉崎礼佳 館野悠斗 富永健太 永田咲良 出井正茂 和田愛利 加藤彩 井岸俊太郎 前田智都
- 島田将吾 林直希 麻生詩織 酒井愛海 岡村泰昇 寺谷友杏 川口詩森 芦澤文孝 亀田康平 岩井優人 植山翔太 中川美結 大島玄詠 大槻圭吾 荒尾弥真士 荻原彩乃 種五美桜 富澤駿介 寺内結菜 羽田菜由 筒井忠士 飯田美乃里 早川瑞希 羽田萌香 鞠子明玖 上柳颯也 那須凜 大森有紗 羽根生悦 菊池翔々 松本晃 鎌形恭聖 松山暖生 徳部百花 篠島英美佳 佐伯優心 木口遼大 笠井勇希 綿引智彦 溝淵巧馬 久我保乃夏 林辰斗 野口広樹 名古屋怜奈 久我利和輝 高橋慧 生田名菜美 花鳥駿介 後藤翼 平野留唯 仙波陽真 古川亜季 小泉そよ子 佐藤希一 有賀日向子 西浦韻乃 米田健将 河村香菜乃 近藤友貴 山口慶 吉村泰一郎 倉兼航大 坪倉羽奈 恒吉大輝 久富亮 鈴木悠雅 渡部楓梨 齊藤清華 方勇豪 加藤美羽 井原聡仁 江良晴豊 千葉慶 高橋亮丞 上田陽生 亀井一真 高橋玲 宮澤響 金子遥奈 柿本はな 湯元音色 島海葵乃花 足立岳大 渡辺颯太 山田紗雪 馬淵建人 白井美智 大西優路 横室晴登 山口美奈珠 三船桐太郎 堀越祐輝 鈴木淑孝 河村隆臣 鈴木晴瑠 大野朱音 網谷笑子 野川康太 三浦真緒 内藤碧彩 小林理彩 中村理仁 内藤澗貴 福島暖和 福田晴香 土居美裕己 小澤颯太 添田菜々子 添田虎之介 東郷恵菜 江藤悠磨 八重沢珠衣 野田侑希 橋らむ 江原花 渡邊大生 吉田雪乃 荒井郁乃 井上純菜 岩元清伶奈 田口宝咲 青木弓 坂口このか 西野羽純 眞木悟志 金子恭介 高田梓 林英介 山本大誠 五十嵐有人 谷口晃規 橋口空良 伊藤翼 平林紅音 渡辺晴琉・伊藤爽悟

春の大祭(つつじ祭)

5月3日～5日

春の大祭当日祭(5月5日)



社殿へ参進



国歌君が代斉唱



宮司祝詞奏上



園児による朝日子舞



直会

子供の祭り(5月3日)



稚児行列にはスカウトや陣羽織、子供太鼓など多くの供奉が

大 宮 第72号
春の大祭号
 平成17年5月1日発行
大宮八幡宮社務所
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話(3311)0105 168-8570



野点(5月5日)や近隣の生産者による植木市が(3日～5日)